

科目名	哲学	
担当者	村若 修 / MURAWAKA, Osamu	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	哲学入門の講義である。世界や自分について、哲学的な問いを投げかけ、その答えに向かって思索をめぐらせたい。
	到達目標	哲学的なテキストを丁寧に読む力を身につける。 テキストや講義を通じて、自ら考える力を身につける。 哲学的な問いとそれに対する答えを自分の言葉で表現できる。
授業計画	(1) 意識・実在・他者① (2) 意識・実在・他者② (3) 記憶と過去① (4) 記憶と過去② (5) 時の流れ① (6) 時の流れ② (7) 私的体験 (8) 経験と知① (9) 経験と知② (10) 規範の生成 (11) 意味のありか① (12) 意味のありか② (13) 行為と意志 (14) 自由 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・テキストの該当箇所を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・2～3 回おきに小レポートを課す。
使用教材・参考文献	使用教材	野矢茂樹 『哲学の謎』 講談社 1995 (ISBN4-06-149286-1)
	参考文献	・永井均 『翔太と猫のインサイトの夏休み』 ナカニシヤ出版 1995 (ISBN4-88848-289-6) ・永井均 『マンガは哲学する』 現代岩波文庫 2009 (ISBN978-4-00-603183-1)
成績評価の基準と方法	基準	課題について、少なくとも自分の言葉で自分の考えを書かなければ不合格です。
	方法	基本的に期末レポートによる。
備考	・読書レポートの内容を成績評価の対象とする。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	現代の倫理	
担当者	村若 修 / MURAWAKA, Osamu	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	現代の倫理問題はさまざまであるが、本講義ではとくに「生命倫理」の問題に焦点を当てて検討する。最初にアメリカで「バイオエシックス」と呼ばれる学問が成立した事情とその思想的意義を解説し、その後で、具体的な諸問題を取り扱う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生命倫理学」という学問分野について理解する。</li> <li>・現代における生命倫理の諸問題を認識する。</li> <li>・その諸問題について、自分の考えを表明できる。</li> </ul>
授業計画	(1) 「生命倫理学」とは？ (2) 生命倫理学（バイオエシックス）の成立 (3) 生命倫理学の基本原則 (4) 尊厳死（1） (5) 尊厳死（2） (6) 安楽死 (7) 安楽死 (8) 人工妊娠中絶 (9) 生殖補助医療技術の諸問題（1） (10) 生殖補助医療技術の諸問題（2） (11) 出生前診断（1） (12) 出生前診断（2） (13) 脳死と臓器移植 (14) 脳死と臓器移植 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。</li> <li>・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	・配付資料やビデオ教材に対する感想文等の提出を求めることがある。
使用教材・参考文献	使用教材	玉井 真理子・大谷 いくみ編『はじめて出会う生命倫理』有斐閣（ISBN978-4-641-12420-2）
	参考文献	中山愈編『現代の思想的課題』弘文堂（ISBN4-335-15041-5） 今井道夫『生命倫理学』産業図書（ISBN4-7828-0206-4）
成績評価の基準と方法	基準	総合的な評価で 60 点を獲得すること
	方法	期末試験（80%） 読書レポート（10%） 授業時間内の課題提出物（10%）
備考	読書レポートの内容を成績評価の対象とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	宗教文化論	
担当者	兼城 糸絵 / KANESHIRO, Itoe	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	本講義では、日本を含む東アジアや東南アジアを中心とした地域で営まれている多種多様な「宗教」について、具体的な事例をもとに紹介していく。そして、「宗教」に対する理解を深めるだけでなく、「宗教」を研究対象とする際に必要な知識の習得を目指していく。
	到達目標	1、東アジアを中心とした地域の多様な宗教文化について理解を深め、「宗教」に関する基礎知識を得ることができる。 2、近代化やグローバル化といった社会的・歴史的ダイナミズムを踏まえながら、「宗教」をとらえる視点を養う。
授業計画	(1) オリエンテーション（講義の概要、評価方法に関する説明、および簡単なレクチャー） (2) 「宗教」とは何か？①—「宗教」という概念について (3) 「宗教」とは何か？②—「宗教」の始まりをめぐる議論について (4) 信じることと行うこと—呪術、邪術、妖術とその論理 (5) シャーマニズムと近代—「癒し」の諸相 (6) 祖先祭祀と家、親族—南西諸島を事例に (7) 通過儀礼について (8) 東アジアにおける「宗教」の諸相① (9) 東アジアにおける「宗教」の諸相② (10) 東アジアにおける「宗教」の諸相③ (11) 東南アジアにおける「宗教」の諸相① (12) 東南アジアにおける「宗教」の諸相② (13) 日本の「宗教」事情① (14) 日本の「宗教」事情② (15) 現代社会と宗教	
自学自習	事前学習	参考書を通読しておくこと
	事後学習	ハンドアウトで提示した参考文献に目を通すこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	櫻井義秀・三木英（編著）『よくわかる宗教社会学』2007 ミネルヴァ書房。ISBN:4623049965 その他適宜講義中に提示する。
成績評価の基準と方法	基準	毎時の講義で提示するキーワードについて理解し、「宗教」に対して自分なりの見解を示せた者を合格とする。
	方法	出席態度（50%）および読書レポート（50%）にもとづき評価する。詳細は初回の授業で説明する。
備考	講義の進度により、内容を変更する時もある。なお、読書レポートの内容を成績評価の対象とする。指定文献については、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	人間らしさを考える	
担当者	◎木下 昌也 / 蒲地 賢一郎 / 松本 宏明 / 溝上 宏美	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	本講義では人間という動物を特徴づけると考えられるものを取り上げそれらの本質、普遍性について考える。本年度は、人間の本質的な行動でもある言語、基本的な社会集団としての家族、近代社会の普遍的概念としての人権概念、そして人間のライフサイクルについて取り上げる。
	到達目標	講義で取り上げた内容について自分自身のこれまでの考えや経験を重ね合わせて考察できる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 家族と人間① (3) 家族と人間② (4) 家族と人間③ (5) ことばとヒト① (6) ことばとヒト② (7) ことばとヒト③ (8) 世界史における人権概念－「普遍性」を問う－① (9) 世界史における人権概念－「普遍性」を問う－② (10) 世界史における人権概念－「普遍性」を問う－③ (11) 人間のライフサイクル① (12) 人間のライフサイクル② (13) 人間のライフサイクル③ (14) 人間のライフサイクル④ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・前回までの学習についてノート、プリント等で振り返っておくこと
	事後学習	・各テーマそれぞれで指示される課題に取り組むこと
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に資料を配布する。
	参考文献	授業中紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	各テーマについて上記到達目標に到達すること。また、授業中提示する「読書課題」を提出することが評価の前提となる。
	方法	各テーマで出される課題それぞれ 25%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	東洋思想	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	儒家思想についての講義。孔子、孟子、荀子を探り上げ、儒家の基本的特徴と、三者の差異及びその原因について講じる。
	到達目標	儒家思想の基本的特徴を理解する。 思想を体系的に把握する方法を学ぶ。
授業計画	(1) 授業のオリエンテーションと中国古典を理解するための基礎知識 (2) 封建制の構造と弱点 (3) 孔子の生涯と思想 (4) 孟子の生涯とその時代 (5) 政治観：「仁政」 (6) 法家思想と商君の改革 (7) 尚古の歴史観：「一治一乱」 (8) 性善説とその目的 (9) 荀子の生涯とその時代 (10) 性悪説とその目的 (11) 秦に対する評価と社会への視線 (12) 「天人之分」の内実 (13) 三才（天・地・人）の関係とそれを統べるもの (14) 漢代の儒家：儒家一尊の実態 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に資料と結論との関係を再確認すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	赤塚忠編『思想史』中国文化叢書 3 大修館書店 1967 年 赤塚忠編『思想概論』中国文化叢書 2 大修館書店 1968 年 近藤春雄『中国学芸大辞典』大修館書店 1987 年
成績評価の基準と方法	基準	儒家思想の基本的特徴と、孔子、孟子、荀子の思想の差異及びその原因を理解できていれば合格とする。
	方法	筆記試験 60% 出席態度 40%
備考	定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本の歴史	
担当者	梶尾 達哉 / TORAO, Tatsuya	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	古代～近世の日本について、高校までの「日本史」では取り上げないいくつかのテーマを、学説・史料・資料を紹介しながら、考えていきます。高校の「日本史」未修者でも受講可です。
	到達目標	日本の国家の成立に関心を持ち、前近代の罪刑・性愛・習俗についての観念と現代との関係を説明できること。さまざまな史料・資料に親しみ、歴史学的な思考ができるようになること。
授業計画	(1) 騎馬民族征服説 I (2) 騎馬民族征服説 II (3) 稲荷山古墳出土鉄剣銘文 I (4) 稲荷山古墳出土鉄剣銘文 II (5) 古代の罪と罰 I (6) 古代の罪と罰 II (7) 古代の罪と罰 III (8) 中世の悪口 (9) 中世の絵巻物を読む I (10) 中世の絵巻物を読む II (11) 中世の絵巻物を読む III (12) 近世における主君押込 (13) 古代・中世・近世の古文書を読む I (14) 古代・中世・近世の古文書を読む II (15) 古代・中世・近世の古文書を読む II	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・受講後、毎回内容等を整理する。 ・質問等はいつでも受け付ける。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	参考書は講義中に必要に応じて知らせる。
成績評価の基準と方法	基準	講義の内容が理解された場合を合格とする。
	方法	受講態度 30%、試験 70%
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	アジアの歴史	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	唐代後半の政治史。唐帝国の崩壊の過程を、制度と出来事との相互関係として解説する。
	到達目標	唐代後半の政治史を理解する。 中国の君主政治の基本的な仕組みを把握する。
授業計画	(1) 授業のオリエンテーションと中国史の基礎知識 (2) 玄宗期の節度使と傭兵 (3) 安史の乱の経過 (4) 安史の乱の遺産 (5) 国家財政 — 塩税と羨余 (6) 白居易 — ある士大夫の官歴 (7) 軍人 1 — 節度使 (8) 軍人 2 — 傭兵 (9) 徳宗と建中の変 (10) 宦官 1 (11) 宦官 2 (12) 憲宗の功績と限界 (13) 大運河 — 帝国の生命線 (14) 三大反乱と自壊する帝国 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に取り上げた事件がどのような「仕組みと繋がり」に依っているかを再確認すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	授業で採り上げた主要な史実を「仕組みとつながり」の観点で説明できれば合格とする。
	方法	筆記試験 60% 出席態度 40%
備考	定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	中国の文化	
担当者	横山 政子 / YOKOYAMA, Masako	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	わたしたちの日常生活慣習や行事には中国伝来のものが少なくない。中国の文化を紹介しながら、中国文化と日本文化の関連や相違に興味を抱き、日常生活慣習や行事を見つめなおす。
	到達目標	生活に深く関わっている中国の文化を学ぶことにより、中国文化と日本文化との関連を見出すことが目標である。
授業計画	(1) ((1) 繁体字と簡体字——漢字文化圏、鹿児島で見た繁体字と簡体字 (2) (1) 繁体字と簡体字——簡体字の誕生、中国語になった日本語 (3) (2) 文字の文化史——絵文字、甲骨文、金文、篆書 (4) (2) 文字の文化史——木簡、隸書 (5) (2) 文字の文化史——筆、印、絹布、紙の出現 (6) (2) 文字の文化史——巻物、楷書、折本、冊子本、ペン (7) (2) 文字の文化史——印刷のはじまり、石刻、明朝体 (8) (2) 文字の文化史——木版印刷、活版印刷 (9) (3) 暦と年中行事——干支と二十四節気 (10) (3) 暦と年中行事——伝統的な年中行事 1 (11) (3) 暦と年中行事——伝統的な年中行事 2 (12) (4) 生活慣習——中国の家族・親族 1 (13) (4) 生活慣習——中国の家族・親族 2 (14) (4) 生活慣習——中国人の居住空間 (15) 総復習	
自学自習	事前学習	意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を整理してプリントを完成させる。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	藤枝晃『文字の文化史』岩波書店、1991年、ISBN4002600831
成績評価の基準と方法	基準	中国文化に関する知識を習得して、日本文化との関連や相違が理解できたものは合格とします。
	方法	受講態度 (50%)、期末試験 (50%)。受講態度には授業中に実施する小テストを含む。
備考	読書レポートを課す。定期試験日までに読書レポートを提出していない学生は、試験をうけることができない。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	ヨーロッパの歴史	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	近代において国際社会の規範を形成したヨーロッパの近現代史を外観する。
	到達目標	近代において世界の諸地域に大きな影響を与えたヨーロッパの近現代史を理解することで、歴史的背景、とりわけヨーロッパと日本を含む非ヨーロッパ世界との歴史的関係を踏まえたうえで、現代社会について自分なりに考えることができるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーションーヨーロッパとは？ (2) 「文明国」とは？ー近代ヨーロッパと日本 (3) 近代世界システムと奴隷貿易 (4) 環大西洋革命（1）ー産業革命 (5) 環大西洋革命（2）ーアメリカの誕生とフランス革命 (6) 国民国家とは何か？ (7) 諸帝国の動揺ーオーストリア帝国とオスマン帝国 (8) 帝国主義の時代 (9) 「西洋の没落」ー第一次世界大戦 (10) ロシア革命とソ連の誕生 (11) 「危機の二十年」ーファシズムの台頭 (12) 第二次世界大戦とヨーロッパ分断 (13) 脱植民地化とヨーロッパ (14) ヨーロッパ統合への道 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・ 前回配布されたプリントと参考資料に目を通し、内容を確認しておくこと。 ・ 新聞の国際面のニュースを見ておくこと。
	事後学習	・ 授業中に配布したプリントを見直し、意味の分からないところは辞書や参考文献で調べたり、教員にきいたりして理解しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に使用しない。授業中にプリントと資料を配布する。
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	ヨーロッパの近現代史に関する基本的事項が理解できており、文章で説明ができておれば合格とする。
	方法	期末に実施する試験 60%、受講態度を 40%とする。受講態度は時折実施する小テストの結果やアンケートなどの提出状況で評価する。
備考	読書課題の内容を試験での評価に加味する。詳細は第一回目の講義で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	ことばの科学	
担当者	平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	現在、世界中には 6,000 以上の言語があると言われている。この授業では、日本語だけでなくさまざまな言語を取り上げ、ことばについてさまざまな観点から考えていく。
	到達目標	この授業を通して、日本語を含めた言語のしくみについて基礎的な知識を身につけるとともに、ことばのもつ面白さについて発見できるようになることを目指す。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 文字 (3) 音韻・音声 (4) 語彙 (5) 文法 (1) (6) 文法 (2) (7) 小テスト (1) (8) ことばのバリエーション (9) 役割語 (10) 言語変化 (11) 英語の広がり (12) 言語の死と危機言語 (13) 異文化コミュニケーション (14) 言語学の方法論 (15) 小テスト (2)	
自学自習	事前学習	ふだんからことばづかい、友だちや家族との会話、テレビ、新聞、インターネットなど、日常生活にある言語を注意深く観察しておくこと。
	事後学習	小テストと期末レポートに向けて復習を欠かさないこと。
使用教材・参考文献	使用教材	なし。授業時にハンドアウトを配布する。
	参考文献	授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	言語学の意義、内容が理解できていれば、合格とする。
	方法	期末試験 50%、小テスト 20%、授業時の提出物・態度 30%
備考	定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本の文学	
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	日本近代文学史における名作を鑑賞する。作家の略歴を解説し、実際に作品を読む。
	到達目標	近代文学の代表作品を知り、実際に読むことで文学的教養を身につける。
授業計画	(1) ガイダンス 読書の意味を考える (2) 「文学」のジャンルとスタイル (3) 樋口一葉の生涯 (4) 樋口一葉の作品を読む (5) 夏目漱石の生涯 (6) 夏目漱石の作品を読む (7) 芥川龍之介の生涯 (8) 芥川龍之介の作品を読む (9) 島崎藤村の生涯（自然主義について） (10) 島崎藤村の作品を読む (11) 志賀直哉の生涯（白樺派について） (12) 志賀直哉の作品を読む (13) 太宰治の生涯（無頼派について） (14) 太宰治の作品を読む (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・各授業終了時にコメントを記入し、提出。
使用教材・参考文献	使用教材	指定された文庫本。その他、プリントを配布する。
	参考文献	授業中に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	文学に対する理解、関心が深められれば合格とする。
	方法	学期末レポート 60%、受講態度 30%、授業終了時のコメント 10%、ただしそれぞれ合格点を満たしていること。
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	異文化コミュニケーション	
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	グローバル化に伴い国内外において文化背景の異なる人たちとの対面コミュニケーションが増えてきている。日本人が異文化の人たちとコミュニケーションをするとき遭遇しやすい問題点を、日本人のコミュニケーション行動の特殊性から概説する。
	到達目標	「異文化コミュニケーションを構成する項目が理解できるようになる。」 「文化差により生じる言語・非言語コミュニケーションの違いが理解できるようになる。」 「コミュニケーションの失敗の積み重ねにより生じるカルチャー・ショックの諸相が理解できるようになる。」 「上述の事柄について実際に外国人にインタビューしその実態が分析できるようになる」
授業計画	(1) 国内・海外における日本人の異文化コミュニケーションの現状と問題点 (2) 異文化コミュニケーションの背景 (3) 同上 (4) 異文化コミュニケーションの領域 (5) 同上 (6) 文化とコミュニケーション (7) 同上 (8) 非言語コミュニケーション (9) 同上 (10) 言語と文化的認識 (11) 同上 (12) 同上 (13) カルチャー・ショック (14) 同上 (15) 異文化コミュニケーション実体験	
自学自習	事前学習	・「教科書」の指示した箇所を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義内容を確実に理解するために、再度「教科書」「配付資料」「参考文献」を読み返すこと。
使用教材・参考文献	使用教材	鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション』1997年 丸善ライブラリー
	参考文献	授業時に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	講義内容を踏まえたレポートを指示された構成で作成し、かつ下記の方法により 60% 以上達成した者を合格とする。
	方法	読書レポート (20 点)、 授業コメント (10 点)、 前期末レポート (70 点)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	隼人学	
担当者	◎岩橋 恵子 / 小山 正俊 / 近藤 諭 / 永里 紘二	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	現地研修は、スクールバス・ツアーになります。	
科目概要	授業内容	隼人地域において守られ育まれてきた自然・社会・文化を、多角的かつ実践的な視点で知識を得るとともに考察します。今年度は、嘉例川・牧園・福山・垂水地区の地域産業に焦点をあてます（尚、ここでいう隼人地域とは、平和で豊かな文化を育んでいた「隼人」と呼ばれる人々が暮らしていた南九州全体をさす広い意味で用います）。
	到達目標	身近な地域遺産を学ぶことで、地域そのもののもつ豊かさに気づくことができるようになる。 地域と産業の結びつきを理解できる。 自らが地域の一員であることが自覚できるようになる。
授業計画	(1) 隼人学を学ぶにあたって (2) 地域や風土に根付いた食と農 (3) 農的生活から考える生活文化様式 (4) 合鴨農法は革命的農法 (5) 観光とまちづくり (6) これからの観光を考えるーエコツーリズムを事例にー (7) 現地研修（嘉例川・牧園） (8) 地域の恵みが持つポテンシャル（福山）1 (9) 地域の恵みが持つポテンシャル（福山）2 (10) 地域の恵みが持つポテンシャル（福山）3 (11) 親から子へ継承する起業 (12) 桜島の水が創り出す起業 (13) 地域産業～未来～向かって～ (14) 現地研修（福山・垂水） (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	志学館大学生涯学習センター『農的生活のすすめ』南方新社、2007年／その他、講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	志学館大学生涯学習センター・隼人町教育委員会編『隼人学ー地域遺産を未来につなぐー』南方新社、2004年
成績評価の基準と方法	基準	地域のもつ多様な豊かさと可能性を活かして創り出す産業のあり方への視座を獲得し表現できる。
	方法	授業中に課す小レポート40点、期末試験60点。なお、教員が指示する「読書」課題の遂行を、成績評価を受けるための条件とする。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	恋愛論	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	当科目を発案したキャリア教育研究室「新科目プロジェクト」により運営される。	
科目概要	授業内容	思春期・青年期の重要な発達課題の1つとなりうる「恋愛」について、様々な専門領域からアプローチして考えることで視野を広げるとともに、人間と社会に対する関心を深め、豊かな教養を身に付ける一助とする。毎回講師の異なるオムニバス形式であり、授業の後半は各自が考察してグループで話し合い、最終回に発表する。当科目を発案したキャリア教育研究室により運営される。
	到達目標	①それぞれの学問分野や専門領域において、恋愛や男女の人間関係・生活関係についてどのような論じ方があるのかを理解する。 ②1つのテーマに関して多角的に考察する力を身に付ける。 ③学習援助者として配置されるキャリア教育ゼミの学生のサポートを受けながら発信力・傾聴力を高め、学科・学年を越えた交流やコミュニケーションを積極的に楽しむ姿勢を発揮できる。
授業計画	(1) オリエンテーション：キャリア形成における「愛」の役割（志賀玲子准教授） (2) グループ・ディスカッションの進め方（キャリア教育研究室） (3) 文学：平安時代の恋と結婚（山崎桂子教授） (4) 心理学：心理学からみる恋愛（野上真講師） (5) 舞台舞踊：バレエと恋愛（白鳥五十鈴氏／SHIRATORI BALLET） (6) ドラマ・演劇：恋愛の演劇的視点（堅山博之氏／中村栄子事務所 演出家） (7) 地元企業：国際派・女性社長が語る恋愛事件簿（門田晶子氏／湖上印刷株式会社 代表取） (8) 刑法：男女間に起こった事件の顛末（杉山和之講師） (9) 色彩学：カラーで幸運を引き寄せる～恋愛編～（高橋リエ氏／カラーイメージコンサルタ） (10) 社会学：ロマンティック・ラブの誕生と現在（清水昭雄学長） (11) 経営学：マネジメントから見た恋愛論—エロースとアガペー—（平手賢治准教授） (12) 民法：恋愛と結婚にまつわる法知識（牧野高志講師） (13) 行政・地域：「まちコン」の取り組み（上祐祐典氏／株式会社まちづくり薩摩川内） (14) 観光・まち歩き：地域資源となった歴史上のロマンス（調整中） (15) グループ発表と総まとめ	
自学自習	事前学習	人生における恋愛の位置づけについて、様々なロールモデルをもとに考察しておくこと。
	事後学習	それぞれの回の内容や資料を復習し、自分の考えを深めて言葉で表現できるようにしておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	毎回積極的に授業に参加し、話し合いやコメントシートで自分の考えを深め、各専門領域の特色を踏まえた上でレポートに適切にまとめられた場合に、合格とする。
	方法	参加態度 60%、コメントシート 15%、レポート 25%。
備考	レポート課題の一部に読書課題を含む。外部講師の関係で、授業の順番や内容が変更になることがある。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	韓国の言語と文化	
担当者	有松 しづよ / ARIMATSU, Shizuyo 入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 前期 / 演習 / 2 単位 / 1 年次	
	◎本授業は「韓国文化研修旅行」を含みます。	
科目概要	授業内容	(1) 韓国ソウルの視察旅行 (2) 韓国の伝統文化体験 (3) 韓国の大学生との交流
	到達目標	(1) 簡単な韓国語でコミュニケーションができるようになる。 (2) 韓国の歴史・文化・言語に対する理解を深める。 (3) 韓国の大学生と交流することにより、積極的に他国の人々と関わろうとする姿勢を身につける。
授業計画	(1) 事前指導 (7 月下旬) (2) 事前指導 (8 月上旬) (3) 韓国文化研修旅行 (4) 場所：韓国ソウル市 (5) 日時：平成 27 年 8 月 31 日～9 月 4 日 (4 泊 5 日) (6) ※日程は諸般の事情により変更になることもあります。 (7) 内容 (1) ソウル市内および近郊の視察旅行 (8) 内容 (2) 韓国の大学生との交流 (9) 内容 (3) 伝統文化体験 (10) 参加費用：約 13 万円 (旅費、宿泊費、食費、交通費、保険、入場料等) (11) ※参加費用は為替レートの変動により、多少増減します。 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 〃	
自学自習	事前学習	韓国の言語、歴史、文化、伝統、観光地等について調べておくこと。
	事後学習	研修の成果をレポートにまとめて提出する。
使用教材・参考文献	使用教材	使用しない。配布するプリントを使用する。
	参考文献	入佐信宏・金孝珍『これで話せる韓国語 STEP1』白帝社 2015 年
成績評価の基準と方法	基準	上記の到達目標に達した者を合格とする。
	方法	事前指導での積極性(10 点)、文化研修での積極性(70 点)、レポート(20 点)で評価します。
備考	韓国語ができなくても受講可。事前指導には必ず参加すること。詳細は担当教員まで。 教員が指示する『読書』課題の遂行を成績評価に加味する。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	実践日本語講座	
担当者	有松 しづよ / ARIMATSU, Shizuyo	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次	
	—	
科目概要	授業内容	さまざまな文章表現について学習する。そのうえで卒業論文や就職時に求められる文章表現の基礎を習得する。毎授業ごとに小テストを実施する。
	到達目標	多様な文章表現のなかから目的に応じた表現方法を選択し、文章やプレゼンテーションにて発表できる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 書き言葉と話し言葉 (3) 尊敬語と謙譲語 (4) 文章表現の工夫 1 (5) 文章表現の工夫 2 (6) 文章表現の工夫 3 (7) 文章表現の工夫 4 (8) ビジネス文章 1 (9) ビジネス文章 2 (10) 口頭発表の工夫 1 (11) 口頭発表の工夫 2 (12) 口頭発表の工夫 3 (13) プレゼンテーション (14) プレゼンテーション (15) 授業内容の総まとめ	
自学自習	事前学習	事前学習課題に取り組む
	事後学習	既受講内容を復習する
使用教材・参考文献	使用教材	オリジナルテキストを使用する。
	参考文献	随時紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	多様な文章表現の存在を自覚し、目的に応じた的確に使い分けることができる。
	方法	授業参加度 55 点 定期試験 45 点
備考	授業参加度評価中には読書課題の提出も含む	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル